

国立スポーツ科学センター（JISS） オプトアウトにより実施する研究

研究課題名	オリンピック・パラリンピックスポーツにおけるアスリート・ウェルビーイングの実態調査
倫理審査委員会承認番号	2021-039
研究開始日	2021年8月27日
研究終了日	2022年3月31日
研究目的	この研究では、アスリートの身体的・精神的・社会的幸福感についての実態を把握した上で、必要な社会支援体制の在り方について根拠に基づいて学術的・政策的にも重要な知見を導き出すことが本調査のねらいです。一般的にウェルビーイングは、よりよく生きるために、人生の充実、主観的幸福、生活の質にも関連しています。ウェルビーイングに関連するアスリートのメンタルヘルスについては、高い負荷がかかるトレーニングや厳しい試合を繰り返し、ストレスのかかるライフスタイルを伴うことから、アスリートは一般の方と比較してメンタルヘルスを阻害する要因となる経験を多く積んでいることが分かっています。近年、日本人の強化選手も国費の投入や自国開催等によるプレッシャーからアスリートの抱えるメンタル面での課題が表面化している一方で、海外のオリンピック代表選手でうつ、摂食障害、キャリアへの不満が主に報告されています（Gulliver ら, 2015 ; Foskett & Longstaff, 2018）。この研究の目的は、日本人アスリートにおけるウェルビーイングの実態を把握するために、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020東京大会」といいます。）日本人出場者を対象としたアンケート調査を実施することです。
研究対象者	この研究の対象者は、2020東京大会に出場した16歳以上の日本人トップアスリート300名程度です。対象に16歳未満の未成年者は含まれません。
研究概要	この研究で用いるアンケート調査項目（全38項目）は、本研究の研究者が選定した大学生アスリート（100名）を対象とした昨年度の研究でその妥当性、信頼性、実用性が検証されたことから、科学的合理性を備えていると考えています。この研究は、2020東京大会に出場した16歳以上の日本人トップアスリート300名程度を対象にアンケート調査を実施します。調査の質問紙には、ライフスタイル、キャリア、メンタルヘルス、社会的支援体制の38項目が含まれ、回答の所要時間は15～20分程度です（別紙1）。調査結果は統計的に処理し、個人の秘密厳守はもちろんのこと、前述の目的のみに使用します。アンケート調査は、新型コロナウイルス感染症予防のため、社会調査会社を介したオンライン調査で実施します。具体的には、研究責任者が社会調査会社の作成したURLを中央競技団体に送付し、中央競技団体からそのURLがあなたに直接送付されます。あなたの意思のもとでその指定されたURLにアクセスすることにより、ウェブサイ
研究に用いる情報の種類	人を対象として取得された情報（質問紙ライフスタイル、キャリア、メンタルヘルス、社会的支援体制の38項目）
研究の資金源 研究に係る利益相反及び 個人の収益	本研究の資金源は、JISS内予算です。アンケート調査は、調査会社に業務委託を行います。研究責任者に開示すべき利益相反はありません。
研究責任者	衣笠泰介・スポーツ研究部
研究分担者	野口順子（JISS）、立谷泰久（JISS）、栗林千聡（JISS）、荒井弘和（法政大学）、榎本恭介（法政大学）、Paul Wylleman（TeamNL）、Jolan Kegekaers（VUB）
問合せ先	衣笠泰介・スポーツ研究部 ・03-5963-0253（電話） ・taisuke.kinugasa@jpnnsport.go.jp（E-mail）